

愛知県蒲郡市農業委員会（全員発言の座談会で創る地域計画）

【農業委員会の体制】（令和5年7月20日任期開始 新制度移行後3期目）

農業委員9名、農地利用最適化推進委員11名、事務局職員5名

1 地区の特徴・状況、課題

蒲郡市は、三河湾と山に囲まれた丘陵地にあり、耕地面積827haのうち畑地が792haと大部分を占めている。温暖な気候を生かしてミカン栽培が盛んであり、本県を代表する産地である。また、ハウスみかん、イチゴ、つまものなど施設園芸も盛んある。しかし、果樹・畑作では大規模な受け手がなく、農業従事者の高齢化、後継者不足等により遊休農地の発生が懸念されている

2 課題解決に向けた活動（取組と工夫）

蒲郡市では、畑地主体の地域計画が必要となるが、参考となりうる先行事例が乏しく、市担当部署と対応を協議し、ワークショップ方式の座談会で地域の農業者の想いを集約して、地域計画の作成に取り組むこととした。そのため、市担当部署とともに農業会議主催のファシリテーション研修受講を通じて座談会の運営手法を関係職員が習得するとともに、地域計画作成に向けた役割分担やタイムスケジュールを関係者で情報共有した。



座談会（農業の未来会議）の様子

3 活動の成果

- 農業委員・推進委員、JA及び農業者等を対象に事前研修を開催（8月）したことで、全員が発言できる座談会となり、座談会は大成功だった。
- 市内8地区でワークショップ方式の座談会（農業の未来会議）を各2回開催した。1回目の未来会議（10～11月）では、「地域の将来像」をテーマに幅広く地域の農業への想いやアイデアを集めることができた。2回目の未来会議（1～2月）では、「目標地図」の作成に向けて、農地所有者の意向を反映した「意向地図」をもとに、耕作者の想いや農地利用の実情を集めることができた。地域の想いをもとに8地区の地域計画の作成を進めている。